平成 28 年 9 月 25 日発行

大町山岳博物館友の会　第　169　号

ゆきつばき通信

【共催事業　担当役員報告】

山の歴史ウォーキング　体感！山岳文化都市大町　― 平野口編 ―

7 年に一度の御開帳の西正院・大姥堂に合わせて大町温泉郷から平野口大出周辺をたずねる

時：平成 28 年 6 月 22 日（水）　午前 9 時～午後 3 時

所：大町温泉郷～平野口大出周辺

指導：大町市文化財センター　小林茂喜氏

参加者：24 名

当日、6 月 22 日は水曜日であったにもかかわらず、西正院大姥尊像の七年に一度の御開帳の日とあって予定を超える 24 人の参加があり、また心配されていた雨にもならず、晴れたり曇ったりのお天気での歴史探訪となりました。

先ず､8 時 30 分に大町温泉郷観光案内所の駐車場に集合して､はじまりの会を行い、9 時過ぎに出発。上原遺跡に到着して清水副館長から遺跡発見の経緯とストーンサークルが縄文人の山岳信仰の祭祀に関わる歴史遺構であって春分、秋分、冬至、夏至等の天文観測的な意味があったかどうかはっきりしたことはわからない等の説明を受けました。

次に大出・山の神に向かい、関学芸員から山に関わる人たちの間で祀られてきたこと、魚のオコゼが供えられたことなどの説明を受けました。

次に西正院に向かい、七年に一度の大姥尊座像の御開帳の儀式に立ち会いました。ここでは大町市文化財センターの小林指導員からここに大姥尊像が安置された由来等の説明を受けましたが、たまたまこの場に小谷村から招待されてきた船窪小屋の松沢夫妻とお会いして大姥信仰が小谷にも伝わっていたことを知って感慨深いものがありました。

西正院裏の遠山品右衛門の生家を遠目に見ながら次の目的地である野口村庄屋役・飯嶋家へと向かいました。ここでは野口村の歴史的概要と飯嶋善造らによる信越連帯新道という長野と石川両県を結ぶ牛馬が通れる有料道路の開設とその崩落の経緯について説明を受けたのちに、その信州側出発点であった大宮神明社に向かい、和気あいあいの昼食となりました。

出発点である温泉郷観光案内所への帰路、宮沢会長より、蓮華岳等目前にある北アルプスの山々の成り立ちや岩石の組成などについて説明を受けながらのんびりと歩き、無事終了となりました。おわりの会の後、参加者の中から友の会へ入会いただいた方もあり、予定外のよき催行でもありました。

（中畑・宮田）

【共催事業　担当役員報告】

対談「写真家の視点・研究者の視点からライチョウの魅力にせまる」

雷鳥写真家・高橋広平氏と鳥類研究家・小林篤氏の対談を通して、それぞれの視点からライチョウの魅力にせまる

時：平成 28 年 9 月 11 日（日）　午後 1 時 30 分～午後 3 時

所：山岳博物館　講堂

対談者：雷鳥写真家 高橋広平氏　×　鳥類研究家 小林篤氏

司会進行　山博指導員 宮野典夫氏

出席者：29 名

高橋広平さんの写真展にともなって、若手鳥類研究者小林篤さん(K)と高橋さん(T)

の対談が宮野典夫指導員(M)の進行で行われました。

高橋さんは第４回田淵行男賞岳人賞を受賞された写真家で、ライチョウに魅せられ生態の知識のみならず深い愛情（ただし片想いらしい）をもってライチョウの写真を撮られています。その温かみある写真は、厳しい自然と絶滅の危惧にありながら、ひじょうにホッとさせるものがあります。

小林さんは東邦大学理学部生物学科の訪問研究員で、信州大学の中村浩志先生とともに乗鞍岳等を中心にライチョウの調査研究を行っています。東大天井岳でニホンザルによるライチョウ雛の“捕食”を確認されたメンバーでもあります。

お話は幼少の頃の様子を含めてお二人の経歴からはいり、撮影機材の話へと進みました。

それぞれ撮影のスタンスは違いますが、撮影のコツは、観察しながらゆっくり待つこと。高橋さんは「豆大福」を１ｍの至近距離から収めていますが、ライチョウに緊張や警戒はみられません。ちなみに、高橋さんの撮影システムはペンタックス数台を使い分け、小林さん（記録写真）はリコーＧＲとのこと（コンデジはシャッターラグがある）。また、撮影のおすすめの時期は繁殖期で、積雪期であることから立山や乗鞍などバスのあるところが入りやすいということです(K)。

冬季の撮影では夜明けにオスが鳴き交わしながら集まってくるということで、それを頼りに所在を特定するようです(K)。テントや雪洞を掘って待機しますが、汗をかかない様に、体をぬらさないように注意しているということでした(T)。

ライチョウの生態についてもお話され、冬季の集団生活、換羽の状況、オスメスの区別（オスはくちばしから目にかけて黒いラインがある）などをお聞きしました。珍しい例で、今回写真「イチゴ大福」も出ていますが、冬季ピンク色のライチョウが確認されています。平林国男元館長も認められています(M)。中村先生は光の加減と考えているようですが、高橋さんは曇天下で撮影されており、その理由は分かっていな

いということです。

ニホンライチョウは特に南アルプスでは南限集団であり、長野県においても狭い面積を生息域とし、ここ30年で3000羽から1700羽に減少しています。温暖化、捕食者の侵入といった環境の変化・破壊を大きく受けています(K)。キツネを代表とする捕食者の増加は、間接的には登山者の出すゴミ・残飯も原因であり、また、里山の荒廃が捕食者等を高山帯に導いていることを話されました。登山口の駐車場でもゴミ・残飯を放置することがカラスの侵入を許し高山に到達しやすくしています(T)。

宮野さんからの「ライチョウに聞いて見たいことは？」の質問に、高橋さんは、温暖化や捕食者の進入の中で、人間のことをどう思っているか、今後とも愛でてよいか聞きたいとのこと。小林さんは捕まえて足環をつけてまた放鳥などしている自分のことをまたあったときに覚えているか聞きたいとのことでした。

また、「ライチョウとはそれぞれにとって何であるか」の質問に、小林さんは神の鳥として山岳信仰や奥山保全によって至近で観察できる野鳥となっており、日本の高山の象徴として今まで築いてきたものを後世に伝えていきたいと話されました。高橋さんは、無条件に好きなもの、永遠の片想いでいたいと話されました。

高橋広平写真展「雷鳥～四季を纏う神の鳥～」は11月27日（日）まで開催されています（休館日有り）。また、ミュージアムトークが11月3日（木・祝）午前10時からと午後2時から行われます。

小林さんは第 17 回ライチョウ会議長野大会でも「ライチョウってどんな鳥？～現状と課題～」と題してお話されます。

この催しにともなって、友の会から受付等の協力を行いました。また、参加者へのお茶のサービスを行いました。事務局により友の会のご案内のパネル等が会場に掲示されました。最後に有川美保子副会長より、ライチョウのいろいろな生態を学べ、ゴミを出さない、拾うなど私たちにもできることを教えていただいたと、お礼の挨拶をいたしました。

（有川ｍ　丸山ｙ　丸山ｔ）

カクネ里雪渓（氷河）学術調査団報告会と企画展ミュージアムトーク

カクネ里雪渓（氷河）学術調査団報告会がカクネ里雪渓（氷河）学術調査団の主催で 7 月 10 日にサンアルプス大町で行われました。演題と講師は次の通りです。

○北アルプスの雪渓・氷河研究史とカクネ里雪渓
立山カルデラ砂防博物館　飯田 肇 氏
○カクネ里に現存する氷河確認調査　立山カルデラ砂防博物館　福井幸太郎 氏
○カクネ里雪渓の学術的意義とその課題　信州大学　鈴木啓助 氏

各講師からは雪渓と氷河の違い、氷河の氷の特徴、カクネ里雪渓の研究史、今回の学術調査の状況などが話されました。カクネ里は風下斜面で積雪が多く、比較的日陰斜面であること、水流が少ないことが氷河を形成する条件となったということです。

また、信州大学の原山智先生から周辺の地質のお話が、小坂共栄調査団長からは今後成果を発表していくとともに、多角的な総合調査を行っていく旨が話されました。

報告会の後は、山博に移動して、飯田先生、福井先生によるミュージアムトークが実施されました。

（編集部）

烏帽子の会

活 動 報 告　松川村　雨引山

《月日》5 月 28 日（土）　　《天気》曇り　《参加者》合計 15 名＋1 名総会のみ

《コース状況：その他周辺情報》

下見の時には、登山口のすこし先に 3 台ぐらい車を停められそうな空き地がありましたが、当日そこに軽自動車が真ん中に停まっていた為、もう少し先まで行きました。そこにあったスペースも車 1 台とバイクが 1 台停まっていました。結局お宮の入口で車を停めることになりました。ただここに下りてくるので帰りは楽になりました。

登山口から 40 分ぐらいは結構な登りが続きます。カンカン照りではなかったので助かりましたが、曇っていてもかなり汗をかきました。登山道は整備をされていてとても歩きやすかったですが、途中熊倉岩を過ぎたところが岩場の急な下りで今日一番の難所です。あとはガレた足場のところが 1 か所ありました。

ちょうど頂上までは 2 時間かかりました。頂上には地元穂高の方が何名かと鍬ノ峰と間違えて雨引山にきてしまったという茅野からきたご夫婦がいらっしゃいました。頂上はせまいので適当に分かれて昼食をとりました。

下山は途中から来た道とは違う下山道を行きました。ここもずっと歩きやすい道でした。

《感想》

下見の時にはとてもきれいだったシャクナゲはすっかり終わってしまい、イワカガミも少し残っているだけでしたが、山ツヅジ・アカモノやアオダモなどずっと私たちを楽しませてくれました。

また頂上では宮澤さんから三角点の話をしていただきました。一等三角点は 18cm 角、二等三角点は 15cm 角でほとんどが小豆島の花こう岩だと勉強しました。

《コースタイム》

いわさきちひろ美術館集合 8：30～雨引山登山口 9：05～最初の鉄

塔 9：23～雨引山山頂 11：06～昼食～下山開始 12：00～お宮入口（駐車場）13：30～いわさきちひろ美術館 14：00～公園で総会～15：00～すずむし荘お風呂自由解散

活 動 報 告　長野市　虫倉山

《月日》7 月 16 日（土）　　《天気》曇り　《参加者》合計 12 名

《コース状況：その他周辺情報》

前日に雨が降り、当日も曇り模様で天候が心配されましたが、運よく雨にあたることはありませんでした。雲が多かったので回りの山は見えませんでしたが、雨に濡れた葉っぱの緑がとてもきれいでした。

神城地震の影響で、途中の東屋がぺちゃんこになっていました。屋根はそのままで柱が倒れた感じでした。また頂上は 1/3 が崩落していました。以前あったという望遠鏡も土台らしきものは残っていましたが本体は片づけたのかくずれ落ちたのかは定かではありませんがなくなっていました。地震の影響の大きさを感じました。

《感想》

今回本当は「さるすべりコース」に行きたかったのですが、地震の影響で下見の時には通行止めになっていました。ただ当日は途中お会いした方のお話しだと 7／1 から通行止めが解除されていたみたいです。残念でしたが次回のお楽しみにしたいと思います。

登山道にはいろいろなお花が咲いていました。その中でも初めてまたたびの花を見ました。白くてとてもかわいいお花でした。また「カヤの実」も初めて見ました。針葉樹のような木に実がなっている様子がとても不思議な感じでした。それにしても松村さんのお花の知識にはおどろかされました。私は毎回いろいろと教えていただきますが、あっという間に忘れてしまいます。

あと途中お会いした駐車場に自転車を置いていた男の人は「宮坂七郎」さんという方で本を書いていらっしゃるということでした。トレイルランのように下って行ってこれからもう 1 山登るとおっしゃっていました。かえってからネットで調べたら本当に「信

州の山」という本が販売されていました。「虫倉山」はまた来たいと思う山でした。

《コースタイム》

7：30 大町市役所～8：09 小川の道の駅～8：28 登山口駐車場 8：40 スタート 9：25 最初の休憩～10：30 山頂（昼食）11：20～下山 12：30 登山口駐車場～13：00 やきもち家（お風呂）14：00 出発～中条道の駅で買い物～15：00 大町市役所

活 動 報 告　七倉尾根を登って船窪小屋へ（七倉岳）２４５０M

《月日》9 月 10，11 日（土、日）　　《天気》晴れ　《参加者》合計 13 名

《コース状況：その他周辺情報》

船窪小屋への道は七倉尾根経由、烏帽子岳経由、扇沢、蓮華岳経由、針の木古道経由、などあるが何処を通っても厳しくも長いものである。今回の七倉尾根がもっとも短時間で登れます。とはいえ急登の連続、年々整備が行き届き登り易くはなっているがコースタイム６時間。吾々烏帽子の会も中高年登山隊なので、十分な時間をとり、それぞれのペースでゆっくり登っていく事とする。以前にはなかった１０分の１から１０分の１０までの道標が整備され苦しい登りの励みになっている。七倉の森は木々の変化に富み美しい森であるが、いたるところに木の根が広がり、足元には十分注意が必要です。幸い今日は木の根も梯子の木も乾いており比較的楽に登れました。木間に槍の穂先を眺め歓声が上がったり、秋の空に染められた様な竜胆の花に慰められたりしつつ、始めのタイム予定より早めに子屋に到着です。懐かしい鐘の音と暖かいお茶で迎えて頂きました。その後は七倉岳、水場に行く人、ゆっくりと休息する人、思い思いの山上の時間を楽しみました。

《感想》

烏帽子の会の宿泊を伴う山行はこれで三回目、いずれも船窪小屋ですが、今回は１３人と多くの参加を得ました。会長の川﨑さんは２日前に足の甲を痛めた中での七倉尾根は本当に大変だったとは思いますが、その責任感に本当に感謝いたします。登りも、

下りも大変な山行でしたが、全員それぞれの形で、剣から槍までの北アルプスの眺望、夜空にかかる上弦の月、星の瞬き、ランプの暖かな灯かり、人々の温もり、山上のコンサート、美味しい食事、ゆったりと心地よい時間を過ごされたことでしょう。また目的の一つ松澤御夫婦の傘寿のお誕生のセレモニー、表彰状、プレゼントともに本当に感激して頂きました。何より天候に恵まれ、中高年登山隊も元気いっぱいで数々の思い出を背負って無事下山できました。

《コースタイム》

9 月 10 日（土）

大町市役所 6：00→七倉 6：30、出発準備　体操　6：45 出発→途中水分補給等小休止数回→七鞍の森にて昼食→天狗の庭 12：00―12：25→船窪小屋 13：10

9 月 11 日（日）

船窪小屋 8：00→天狗の庭 8：30→七鞍の森 10：10 昼食→唐沢のぞき 11：50→七倉 13：30

平成 28 年度これからの山行予定

10 月・・福知山（1672m）……　下記参照ください

H29/　1 月・・北八ヶ岳　北横岳スノーシュー

3 月・・黒斑山スノーシュー

5 月・・池田町陸郷周辺・総会　（桜の関係で４月になる予定）

槍ヶ岳・穂高連峰を岐阜県側から見える福知山（1672m）登山

烏帽子の会 11 月例会は安房トンネルを越えてすぐの所の、岐阜県高山市福知山にて計画いたしました。登り 3 時間弱、下り 2 時間弱、道は良く整備された登山道で歩きやすく、途中第 1 展望台から第 4 展望台まであり、焼岳・乗鞍岳・槍ヶ岳・穂高連峰・笠ヶ岳等をいつも我々が眺める方向とは反対側から臨める隠れた名山です。少し遅めかもしれませんが紅葉の美しさも期待できます。景観が望める好天を願っております。

本サークルのお問い合わせは、事務局（電話：0261-23-6334）まで。

これからも元気で山に登りましょう！

花めぐり紀行

9月4日（日）に、「第1回高山植物の実生観察会」を開催しました。現在、山博では、付属園整備計画のもと高山植物の展示をするための栽培や生活史を中心とした研究を行っています。

この度は、どのような高山植物が栽培されているのか、また現地（高山）でどのような観察をしているのかを千葉学芸員よりパワーポイントを用いてお話を聞きました。

当サークルの今後（冬期間）の活動は、山博で現在進めている植物さく葉（押し花）標本の作製と整理のお手伝いを予定しています。現在までに約500点の作製に協力しました。

当サークルの活動にご興味・ご関心のある方は、友の会事務局までご連絡ください。

山岳文化研究会

活 動 報 告　山岳博物館友の会サークル「山岳文化研究会」研修事業

登山史など北アルプスの歴史や民俗について研究を行うサークル「山岳文化研究会」は、平成28年8月11日（木･祝）に上高地で研修事業を実施しました。今年施行の国民の祝日「山の日」を記念して「第1回山の日記念全国大会」が上高地で開催されるのに合わせ、上高地周辺を散策して山岳文化史にかかわるフィールドを探訪しました。

現在、国内有数の山岳観光地として知られる上高地。グリーンシーズン中心に河童

橋周辺は多くの旅行者でにぎわいます。一方、上高地は槍・穂高連峰周辺での登山を楽しむ登山者が往来するベースになっています。

明治時代にイギリス人宣教師のウォルター・ウェストンら近代登山者が訪れる以前は人跡未踏の秘境であった･･･というイメージを持たれることもある上高地ですが、実は江戸時代以前から、上高地とその周辺の山々には大勢の人びとが踏み入っていました。カミクチ（上口）と称された江戸時代の上高地では、周辺一帯の山々は松本藩の藩有林であり、杣(そま)たちが伐採事業に従事していました。現在、上高地周辺には八右衛門沢、善六沢、奥又白沢、長塀沢など人名に由来すると思われる地名が複数あり、それらはかつて危険をともなう杣仕事によって命を落とした者の名前がつけられた場所だともいわれています。

また、上高地周辺の山域では、今日「北アルプス表銀座」などと呼ばれる縦走路の一部、大天井岳から西岳をへて東鎌尾根から槍ヶ岳へいたるルート「喜作新道」が猟師・小林喜作らによって大正時代に拓かれました。明治時代以降の国内の近代登山において新しく整備されたこうした登山道は、猟師・釣師や樵、修験者や登拝者などが奥山へ通った狩猟・漁労・採集や信仰を目的とした近世以前からの徒歩(かち)道とは異なる道でした。それらは近代登山者が山頂へ登るために拓かれた登頂ルートや縦走ルートであったり、近代登山者向けの営業小屋への短縮ルートとして拓かれた道や、荷上げ・荷継ぎ用のルートとして拓かれた道であったりしました。

さらに、国内の近代登山黎明期において、ウェストンと猟師・上條嘉門次に代表されるように、近代登山者と山岳ガイド役を務めた山人とが出会うことになった場所のひとつが上高地でした。そして、両者の邂逅以降、上高地を起点として槍・穂高連峰周辺山域での探検的登山や縦走登山が次つぎと行われ、近代登山はその幕開けから隆盛へと発展を遂げていきました。

こうした山の歴史の足跡が残る上高地は、北アルプスの山岳文化史を探るには最適のフィールドです。

今回は、歴史分野のほか、サークルの宮澤洋介代表からは、上高地の地形・地質に関する解説も行っていただき、充実した研修となりました。

ご参加いただいたサークル会員の皆さん、お疲れさまでした。

（サークル「山岳文化研究会」事務局担当：関）

《期　　日》　平成 28 年 8 月 11 日（木・祝）　※国民の祝日「山の日」
《場　　所》　上高地（松本市安曇）
《主　　催》　山岳博物館友の会
《参　加　者》　サークル「山岳文化研究会」会員及び事務局担当者　計 9 人

《日程・行程》

・信濃大町駅	6：45 集合（各駅途中合流。鉄道・バス乗り継ぎ）
・大正池	9：37 着
・上高地温泉ホテル前	10：35 着　※上口湯屋、大井庄吉
・ウェストン園地	10：45 着　※W・ウェストン
・西糸屋前・河童橋	11：15 着（昼食）　※松濤明、河童橋、松本藩藩有林
・明神池・嘉門次小屋	13：00 着（休憩）　※嘉門次小屋囲炉裏の間(国登・録有形文化財)、上條嘉門次ら、明神池見学
・明神館前	13：45 着　※播隆の槍ヶ岳開山（中田又重、飛州新道含む）、小説『氷壁』（ナイロンザイル事件）、小林喜作（喜作新道）
・河童橋	15：05 着
・中日新聞上高地支局前	15：15 着　※内野常次郎碑（内野常次郎）
・上高地バスターミナル	16：00 発（バス・鉄道乗り継ぎ）
・信濃大町駅	18：53 着・解散（途中、各駅にて流れ解散）

（大正池にて）

ボランティアサークル

ボランティアサークルでは、定例的には第４日曜日に博物館での除草や清掃作業、山と博物館の封入作業などを行っています。８月の山の日、盆休みの多客時に館内案

内・ボランティア解説を行いました。

今後の予定は、定期の活動の他ライチョウサミットでの会場補助などを行います。また、下記により研修を行います（余裕があれば参加できますのでお問い合わせください）。

館内案内や事業での補助に当たって判りやすいユニフォームがほしいということで、友の会グリーン（それほど特殊な色ではなかった！）のベストとジャンバーで、胸の位置に白く友の会マークを少しデザインしなおして印刷して作りました。

研修　**御池山隕石クレーターと日本のチロル「下栗」**

今回の研修は地形地質を中心に伊那谷から中央構造線の谷・遠山郷に入ります。しらびそ高原に上がり御池山の隕石クレーターを見て日本のチロル・下栗の里をめぐり、秋葉街道に下りてまつり伝承館「天伯」・山村ふるさと保存館「ねぎや」を見学します。

天候がよければ聖、上河内、光といった南アルプス南部の山々が眺められます。御池山クレーターは浸食が進んでいますが、日本で唯一隕石孔と確認された地形です。下栗は山腹に形成された集落で「日本の原風景が残る地」とされています。

研修によって地形や地質と人々の生活が結びついていければと思っています。

■ 日時：11 月 6 日（日）
■ 集合時間・場所：大町市役所（6：30）
〈コース〉 大町市役所 6:30 －（飯田ＩＣ経由）－ 9:15 しらびそ高原 9:45 － 9:55 御池山クレーター10:25 － 11:00 昼食※～下栗ビューポイント（徒歩 20 分）13:00 － 13:10 下栗集落 13:30 － 13:50 上町（「天伯」「ねぎや」等）15:00 － 15:10 秋元停車場（森林鉄道等）15:40 －（飯田ＩＣ経由）－ 19:00 大町市役所
■ 募集人員：17 人（先着順）
■ 参加費：大人 4,500 円予定
■ 持ち物：筆記具、雨具、防寒着、飲み物、行動食等
※昼食　蕎麦（そば処はんぱ亭）　人数分確保済　限定品下栗手打ちそば 1200 円（各自）
■ 申し込み：10 月 23 日のボランティア活動までに申し込み下さい
友の会事務局または担当・丸山卓哉（090-1217-9197）まで

《 お 知 ら せ 》

ライチョウサミット「第 17 回ライチョウ会議長野大会」のご案内

別紙のように、ライチョウ会議が本年は大町市で開催されます。エクスカーション、レセプションは事前申し込みが必要になりますのでご確認ください。また、シンポジ

ウムに合わせてライチョウサポーターズの活動紹介、ライチョウ写真パネル展等も行われます。

・行事名：ライチョウサミット「第 17 回ライチョウ会議長野大会」
・日　程：10 月 15 日（土）・16 日（日）
・内　容：　**エクスカーション**　参加無料・要申込（定員 40 人）
15 日　9:30～11：30　会場：市立大町山岳博物館
ライチョウサミットシンポジウム　参加無料・申込不要
15 日　13:00～16:30（12:30～アトラクション）　会場：大町市文化会館
リレートーク、パネルディスカッション　等
専門家会議　一般聴講可・申込不要
16 日　10:00～16:00　会場：サン・アルプス大町
国内のライチョウ生息状況や動物園での飼育など最新の研究成果を報告
・主　催：ライチョウサミット「第 17 回ライチョウ会議長野大会」実行委員会

ゆきつばき通信編集室より

ニホンライチョウも元気に成長しています。今号は春からの各サークルの活動報告、共催事業等の報告になります。また、ライチョウサミット「第 17 回ライチョウ会議長野大会」を改めてご案内しました。共催行事については「山と博物館」をご覧ください。

ゆきつばき通信には皆さんの行事参加感想文や山行の投稿なども載せていきます。ぜひ投稿をお願いします。次号は来春総会前に発行の予定です。

〔投稿先〕
編集部丸山アドレス　takuya-m@juno.ocn.ne.jp　（件名に「ゆきつばき通信」を付けてください）　もしくは、山岳博物館の事務局にお送りください。

（丸山卓哉）

山博ページ　http://www.omachi-sanpaku.com/
友の会は、山博の情報発信のために山博ホームページの維持に協力しています

会費のご案内
会費振替口座番号　00550－2－24194　加入者名　山博友の会
ファミリー 4,000 円　　個人 3,500 円　　学生 2,000 円
※ファミリー会員とは、同居または扶養家族をさします。学生会員とは、小学生～大学生までをさします。
４月が年度切り替えとなっています。中途入会の場合は年度当初にさかのぼって出版物等を配布します。
賛助会員につきましてはお問い合わせください。

ゆきつばき通信　第 169 号
発行／大町山岳博物館友の会　　平成 28 年 9 月 25 日
〒398-0002　長野県大町市大町 8056-1
大町山岳博物館内　山博友の会事務局　　Tel/Fax 0261-23-6334